

ゲームで勝つには 英語でも情報を得なければ

近年は、職業としてeスポーツ選手(プロゲーマー)を選択する人も増えています。私も18歳からプロの世界に飛び込み、数々の世界大会に出場してきました。世界との差を考えて、専門職としてのコーチが日本にも必要だと感じ、21歳でコーチに転身しました。

世界のeスポーツ市場は、北アメリカや韓国・中国がリードしています。おのずと世界に出回るゲーム関連の情報も、他言語が多いです。翻訳サイトやアプリを活用しながら情報収集していますが、自分に知識がないと、翻訳された情報が本当に正しいのか、判断できません。もともと洋楽が好きで、英語への憧れもあったため、語学アプリなどを使って英語を学ぶように。ただ、ゲームを通じて会話する場合は、片言でも案外伝わるとわかりました。そもそもプレイヤーには英語が第一言語ではない人も多く、ゲームでよく使う単語や言い回しを覚えてしまえば、文法はめっちゃくちゃでも通じるのです。

むしろ英語を学ぶ過程で衝撃だっ

たのは、世界大会に出場したとき、会場近くのカフェに行って「テイクアウト」が通じなかったこと。英語圏では持ち帰りしたいとき「トゥーゴー」が一般的なんです。海外遠征で、現地の人と直に触れ合うことで実践的な知識を得ていきました。

憧れの人は自分の言葉で 直に熱量を交換したい

先日、世界大会に出場するために韓国に行きました。eスポーツは情報戦の面も大きく、他国の選手やコーチと交わした何気ない会話から、ゲームにまつわる最新情報やその国ならではの戦い方を知って、チームの戦略に生かすこともあります。かしこまらない雑談を通じて得られる情報は意外と多く、コーチとして英語を学んだことはプラスだったと思います。

ただ、言葉を通じて交換するのは、情報だけではありません。eスポーツの国際大会では、試合のあと相手チームの選手やコーチに自ら話しかけに行く人たちの姿を見かけます。時には、憧れの選手とユニフォームを交換する場面も。サッカーや野球の国際大会と同じで、真剣に戦うからこそ相手をリスペクトする気

持ちが生まれる。強い選手と話せたら嬉しいし、やる気も出る。情報交換に限るなら、精度が高ければ翻訳でもいい。でも熱量の交換は、自分の言葉でできたら嬉しいじゃないですか。

フィジカルスポーツと同じように、ゲームも、真剣に取り組むことでさまざまなことを学べるものです。スポーツマンシップや戦略的思考…。その一つに、私の場合は「英語」があったのだと思います。いつか日本が、eスポーツで圧倒的な力をもつ日が訪れて「日本語を学ばないと最新の情報に追いつけないな!」とも言われてみたいですけどね。



2023年5月に世界大会に出場したときの1シーン。チームをまとめ上げながらも、他国のチームの戦い方を見て、俯瞰して戦略を立てる。

eスポーツ コーチ XQQさん ZETA DIVISION

選手として活躍後、21歳で専任コーチに転身。日本のeスポーツ界ではゲーミングコーチのバイオニック的存在で多くの支持を集める。所属するZETA DIVISIONではヘッドコーチを務め、チームを世界大会に導く。

#学びのキッカケ

洋楽が好き。またゲームに関して英語による情報が多かったから。

#変化・気づき

国際大会で海外チームのコーチと雑談し、情報を得られるように。

#楽しさ・喜び

憧れの選手やコーチと交流し、リスペクトの気持ちや伝えられる。



全力で戦ってこそ生まれる絆。
「リスペクト」は国境を越える。